

コロナ禍の東京五輪に思う

「【平和の祭典】開催できる状況か」と題して17歳の高校生が6月26日の朝日新聞朝刊オピニオン&フォーラム（声）に投稿した内容に共鳴しました。

東京五輪の開会式まで1ヵ月を切りました。私は今、政府に聞きたいことがあります。それは五輪の別名「平和の祭典」の意味を理解しているのかということです。平和とは何でしょうか。現在の日本、いや世界は果たして平和と言えるのでしょうか。感染防止のため、いたたまれない思いで店を閉めている飲食業界。オンライン授業ばかりで友達ができにくい学生。あらゆる世代が新型コロナウイルスによって複雑な思いを抱えています。

私が考える平和は全ての人が健康で満足に過ごせる状態です。もし国民の苦しみを無視して五輪を開催すれば、政府へいらだちを覚える人もいるでしょうし、疑念の声も生まれるでしょう。国民の不満が日本中で漂うことになります。これで果たして平和といえるのでしょうか。日本に真の平和を取り戻すため、政府にはよく考えてほしいです。

これから私たち次世代の負担は大きくなるばかりです。骨太の方針にもある脱炭素化や少子化をはじめ、解決できていない課題がたくさんあります。それらを解決する道を歩むためにも、まずは五輪本来の意義を考え直してください。

また関西大学准教授の井谷聡子「差別と開催地蹂躪こそ五輪の歴史『平和の祭典』という虚構から目覚めよう」（週刊金曜日6月11日号）より

* 蹂躪…踏みにじること。暴力的に侵すこと。

そもそもオリンピックは誰のためにやるのか。井谷聡子は「オリンピックは平和の祭典だ」という虚構から目覚めよと呼びかける。というのも近代五輪は、女性や性的少数者を排除し、開催地住民や先住民から土地を奪い、反対の声を無視して強行されてきた暴力的な歴史を持つと厳しい見方を示す。「五輪はこれまでも、これからも、誰かの命を脅かし生活を破壊するものだということを知ってほしい」と締めくくる。

私が思うに、菅義偉首相は国会などにおいて、「国民の命と健康を守るのが責任。守らなければやらない」を繰り返すだけで具体的根拠は示さず、開催ありきの精神論ばかりです。

政府の新型コロナウイルス感染症対策分科会の尾身茂会長が言われるように「普通は開催はない」のです。

また新型コロナウイルスの変異株が拡大する中、「ニューヨークタイムズ」によるとこの時期の五輪開催を「最悪のタイミング」と表現し「一大感染イベント」になる可能性を懸念するとあります。

朝日新聞本社、都民調査によると6割が今夏開催は無理、今夏開催なら観客数は「無観客が64%」「観客制限30%」でした。国民が不安に思っていることをどうして強

行しようとするのか？ 早々と国会を閉じ、話し合いさえないのです。この国は民主主義なのではないでしょうか？ 例外の枠を広げて政府の思惑ばかりで進め、国民の命を軽んじる政府。このようなことでいいのでしょうか？

上野千鶴子氏を中心にネット上で「開催反対」の署名が始まったり、国民の動きが出つつあると聞きます。

私たちも声を上げようではないですか！

他人ごとではないのです、私たちの命が脅かされるのです。



朝日新聞より